

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 試験研究機関受託研究実施事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部産業技術課技術支援係 電話番号：058-272-1111 (内 3049)

E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,500 千円 (前年度予算額：7,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,500	0	0	0	0	0	7,500	0	0
要求額	7,500	0	0	0	0	0	7,500	0	0
決定額	7,500	0	0	0	0	0	7,500	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内産業の技術向上・高度化・活性化のため、中小企業等では実施が困難な研究課題を県が受託して実施。

(2) 事業内容

企業等が抱える研究開発に関する問題について、県試験研究機関が所有する、人材、機材及びノウハウを用いて有料で試験を行い、そのデータを提供。

(3) 県負担・補助率の考え方

本事業の財源は全て諸収入 (企業等の負担) による。

(4) 類似事業の有無

健康福祉部、農政部、林政部で各所管の試験研究機関に対する同様の事業を実施している。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,140	現地試験や打ち合わせのための職員の旅費
需用費	5,970	実験資材や薬品、実験機械の燃料や電気料などの実験費用
役務費	290	委託者との連絡、資料資材の輸送などの通信運搬経費
使用料	100	受託研究に必要な機器などの使用料
合計	7,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

- 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
(2) 次世代を見据えた産業の振興

(2) 過去の受託実績

年 度	件数	受託金額	備 考
平成 28 年度	16 件	5,778 千円	
平成 29 年度	7 件	2,223 千円	
平成 30 年度	11 件	4,222 千円	
令和元年度	10 件	3,705 千円	
令和 2 年度	8 件	2,768 千円	

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 中小企業等では実施が困難な研究課題を、企業等から受託して県の試験研究機関が実施することで、県内産業の技術向上・高度化・活性化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%

○指標を設定することができない場合の理由

中小企業等では実施が困難な研究課題を、企業等から受託して県の試験研究機関が実施する研究であり、企業等の経営判断、企業体力、製品開発意欲等に影響されるため、指標の設定は困難。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	【令和2年度に受託した研究課題】 8 課題		
	研究所名	課題名	受託額(千円)
	産業技術総合センター	三味線の胴皮の素材開発	64
	食品科学研究所	穀物澱粉の糊化・老化特性に関する研究	130
	セラミックス研究所	複合材料の脱脂、焼成検討	900
	生活技術研究所	木材乾燥における精油の生産性技術評価	330
		木製テーブルの不良低減に関する研究	400
		コーヒーノキの利用	350
		地域産小径広葉樹高付加価値化に関する研究	440
	ヒメコマツ材の香り成分の方散評価	154	
	(計)	2,768	
企業等が抱える課題を解決することで、企業等の技術力向上や新製品の開発等に貢献した。			
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加		
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %		

令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	中小企業等では実施が困難な研究課題を解決する事業であり、必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	企業等が抱える課題を解決することで、企業等の技術力向上や新製品の開発等に貢献し、事業の有効性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	受託研究は、研究課題毎に委託企業等との綿密な打ち合わせをしながら実施しており、効率化は図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 企業等が抱える幅広い課題に対応するため、試験機器の計画的な整備・更新を行う必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 企業等が抱える課題を解決し、新製品開発に貢献する等の有益性が認められることから、今後も継続実施する必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【〇〇課】
--	-------